

## 【A】 保育実践のマインド&スキルズ編

### 【第5回】 保育者のマインド



鎌倉女子大学短期大学部 講師 金子 智昭

#### 【講座の概要】

私たちは子どもの想いを尊重した保育を実現したいと願いますが、いざ保育現場に立つと、個性あふれる子ども一人ひとりと向き合うことや、子どもの想いを汲み取った丁寧な保育を実践することの難しさを痛感することがあります。このような保育者の実情を踏まえて、本講座では子どもと向き合う保育者のマインド（心のあり方）について、近年の心理学の分野で脚光を浴びている「マインドフルネス（mindfulness）」の概念を中心に、様々な保育事例を紹介しながら話題を提供したいと思います。

③せいちゃんの水遊び（4歳児）

#### 1. 保育者の専門性における「マインド」の位置づけ

・保育者の専門性の3つの要素（「知識」「技能」「態度」）において、“マインド”がどこに位置づけられ、どのような役割を担っているのか？

---

---

#### 2. 保育現場に満ち溢れた「教育的瞬間」と保育者の出

・教育的瞬間とは「子どものために何らかの教育的な働きかけをしなければならぬ一瞬」のことを意味する

---

---

##### 【事例】

- ①保育者の生きがい
- ②偏食—野菜嫌い—（3歳児）
- ③「ヨモギ団子事件」（5歳児）

---

---

---

---

#### 3. 保育者の居方と「マインドフルネス」

・「マインドフルネス（mindfulness）」とは

→今起きている出来事や体験に注意が向けられ、新鮮な気づきに対して開かれた柔軟な心の状態＝「あるがままの姿を見る」

---

---

・「マインドレス（mindlessness）」とは

→自分の価値判断に縛られ、今起きている出来事に気づかず、規則やルーティンに支配された心の状態＝「固定観念にとらわれて見る」

---

---

#### 4. 保育事例から考えるマインドフルネス

##### 【事例】

- ①走ると危ない！！（4歳児）
- ②落ち葉掃き（3歳児）

---

---

---